

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

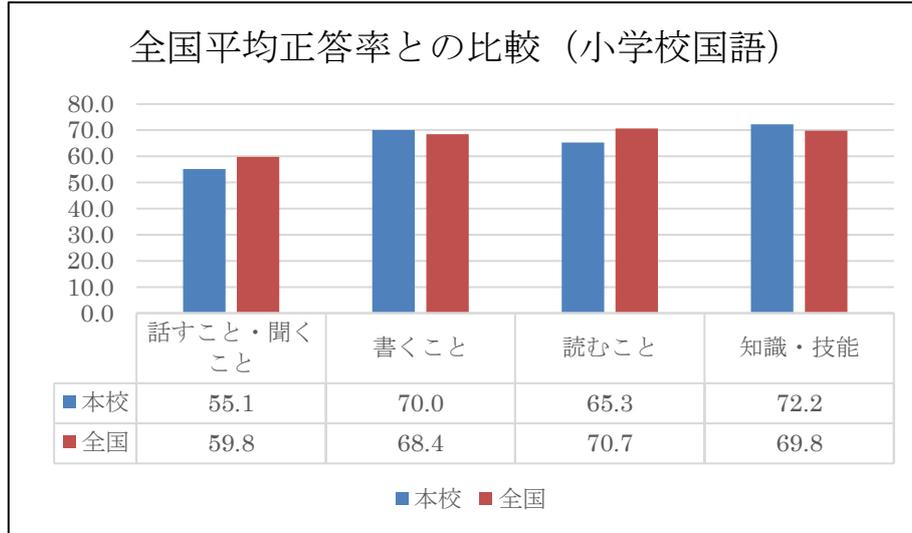
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心, 授業内容の理解度, 読書時間, 勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「書くこと」「知識・技能」は全国平均正答率を上回っています。一方で、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は全国平均正答率を下回る結果でした。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を2.4ポイント上回りました。中でも「情報の取り扱い方に関する事項」では、全国平均を3.8ポイント上回りました。普段から複数の情報から必要な情報を取り出したり、整理したりする学習に取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。本校の正答率は、全国平均正答率を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力を伸ばすことにもつながります。知識及び技能を活用しながら、思考力、判断力、表現力等を主体的に働かせていく学習を積み重ねていくことができるよう、授業改善をしていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

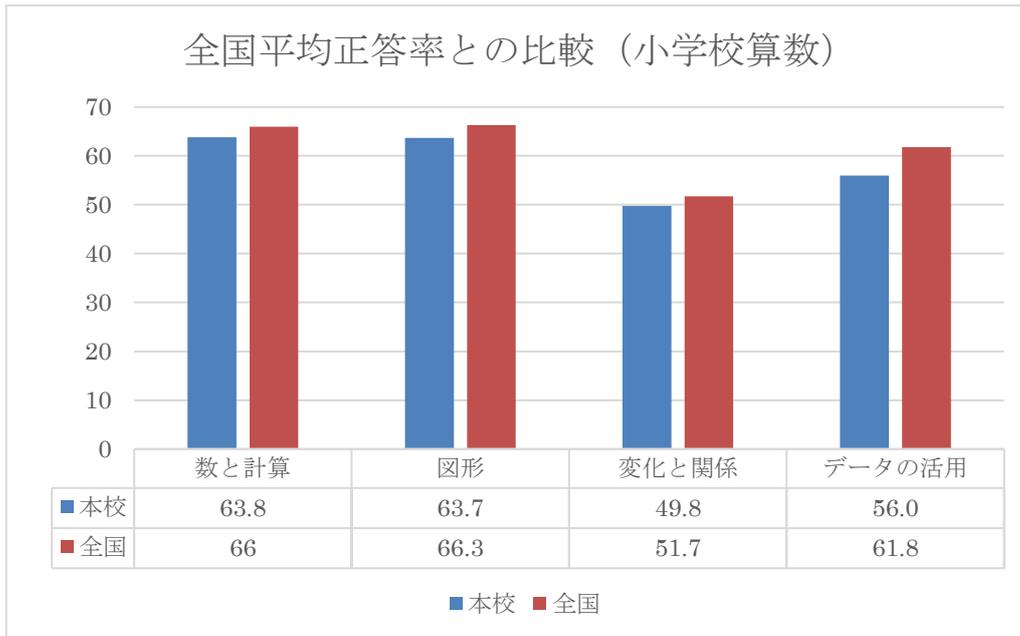
【学校では】

- 児童が個別最適な学びを実現できるよう複数の手立てを組み合わせながら、自ら学び続ける児童の育成を目指します。
- 毎日の授業を活用し、基礎的な読む力、書く力、語彙力を高めます。
- 「できるようになること（指導事項）」を明確に示し、身に付ける力を自覚しながら学習に取り組めるようにします。
- 日常的に書く活動を取り入れていきます。児童がしっかりと自分の学びを言語化し、身に付けた力や学び方を自覚できるようにします。

【ご家庭では】

- 家庭での学習（宿題、自主学習）へ取り組む姿勢を大切にしてください。テレビなどを消して、集中できる環境で家庭学習に取り組ませてください。
- 読書を大切にしてください。様々なジャンルの本にふれ、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率をやや下回っています。特に「データの活用」の領域では、全国平均正答率と比べて、5.8ポイント下回る結果でした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全ての領域で全国平均正答率をやや下回っており、課題が多く見られました。特に、「データの活用」の領域では、全国平均正答率を5.8ポイント下回る結果でした。データを読み取って分かることを記述したり、データを活用して設問に答えたりすることに課題が見られました。

また、「数と計算」「図形」の領域でも全国平均正答率を2ポイントほど下回っていました。各領域の基礎的・基本的な内容の確実な定着に課題が見られました。毎日の授業の中で、一つ一つの学習内容の習得を積み重ねていけるようにしたいです。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基礎的な四則演算や単位換算などに繰り返し取り組む中で、算数の土台となる力を身に付けさせていきます。
- 児童一人一人のつまずきに応じたきめ細かい個別指導を行い、どの児童も「できた」「分かった」を実感することができるようにします。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 日常の中にたくさんの算数があります。買い物の時やお菓子を分ける時、時計を読む時などの日常の場面で算数の考えを使うような問いかけをすることで、具体的な場面で算数の学習をすることができます。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣・挑戦心・就学意欲について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	83.8%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	36.5%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	47.3%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	45.9%	43.4%
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。「よくある」	54.1%	50.8%
将来の夢や目標を持っていますか。	68.9%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	73.0%	71.1%
学校に行くのは楽しいと思いますか。	48.6%	47.2%

起床時刻が定まっていないことが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしておくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

自己肯定感や幸福感、将来の目標や学校に行くことについて肯定的に捉えている子どもが全国平均を上回っていました。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	9.5%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.1%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	24.3%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	21.6%	27.0%
「30分より少ない」	27.0%	13.0%
「全くしない」	9.5%	5.3%

家庭学習については全国平均を下回っています。特に、家庭学習が1時間未満の児童が5割を超えており、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。大きな問題です。学校でも家庭学習の意味や価値を積極的に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても学年の実態に応じて取り組み、お手本になる自学ノートを掲示したりしながら定着を目指しています。
- 道徳の学習や学級活動を中心に挑戦心や自己肯定感を育むことができるような学習を展開し、児童の心を育てていきます。

【ご家庭では】

- 児童の心を育てるには周囲の大人の適切なかわりが不可欠です。児童が自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 家庭学習に取り組んだ時間や内容を見えるようにすると児童のやる気につながります。